

「薬種」

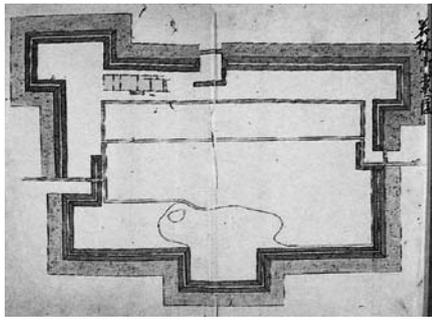
地域のたから 自慢の逸品

仙台藩の名産品—薬種

ずらつと並べたフリガナがなかったら読めそうにない、次の名前はいつたい何でしょう。か
黄連・沢瀉・川芎・当帰…。

これらはすべて薬種の名前です。薬種とは薬の材料。漢方薬がイメージされるかもしれませんが、江戸時代、日本産のものは「和薬」と呼ばれました。薬種が実は江戸時代仙台藩の名産品であったことは、現在ほとんど知られていません。このコーナーで何度も登場している『仙台領高名競』（文政一二年・一八二九）でも、「日本にかくれなきもの」に、黄連・沢瀉が入っています。

仙台産和薬の中でも沢瀉・川芎は、江戸市場の相場を左右するほどの出荷量でした。沢瀉はオモダカ科の多年草で利尿剤などとして、川芎はセリ科の多年草で鎮静・鎮痛・強



若林城の跡地に設けられた若林御薬園（『御修葺帳』、江戸時代前～中期、東北大学大学院工学研究所蔵）

● 仙台市博物館学芸普及室 倉橋 真紀

壯剤として利用されました。仙台藩領内の物産を紹介した『封内土産考』（寛政一〇年・一七九八）では、沢瀉は「当地の産、甚だ好く、我が国で「是れに若くものなし」と品質についても高く評価されています。

現在でも薬種となる植物の栽培は難しいようですが、江戸時代初期は国内での技術や知識が未熟で、輸入に頼っていました。それによる貿易赤字解消のため、幕府が国内での薬種生産を奨励したのは八代将軍徳川吉宗のころです。

仙台藩の薬種栽培

実は仙台藩は、幕府よりも早く積極的に薬種栽培を始めたことがわかっています。貞享元年（一六八四）、城下町人が藩の許可を受けて江戸から薬種の種を取り寄せ、薬園を開いて増産に成功しました。仙台藩初代藩主伊達政宗が晩年に住んだ若林城（若林区古城二丁目）跡地も薬園となっており、「若林御薬園」と呼ばれていたことがわかります。

寛政年間（一七八九～一八〇二）の仙台城下近郊の薬種出荷状況を記した帳簿の出荷地には、長町や連坊小路・宮町といった、現在完全に市街地となっている場所や、福田・沖野・井土浜・七北田・松森など、広範囲にわたる地名が挙げられています。種類によって加工していたようですが、市域全体で薬種の出

荷が行われていました。

苦竹村伊沢家と薬販売

なかでも苦竹村（宮城野区原町から苦竹付近）では沢瀉と川芎の生産が盛んに行われており、五〇人以上の作人がいました。

薬種は、仙台藩の専売商品の一つでした。しかし、安政六年（一八五九）の不作の際、この五〇余人が連署して、専売商人へ渡した薬種の余剰分を自由に売買し、借金の返済に充てたいという願いが出されました。この願いは五〇余人の代表者である二人の世話人の手を経て、村の肝入（現在の村長に近い役職）へ提出されました。当時の肝入善助は、明治に入って伊沢と名乗ります。

この伊沢家の文書に、明治一六年（一八八二）「精気丹」の商売を止めたいという廃業願いがあります。江戸時代の肝入は、明治に入ると知識や財力を背景に、様々な商売を行う人もいました。伊沢家も村会議員を務める傍ら、薬の販売などの商売も行っていったようです。

残念ながら精気丹がいつから販売され、どういった処方のかはわかりませんが、ただ、その名前から、元気が出るという触れ込みで販売されていたことは想像できます。前述の通り、強壯剤でもある川芎は、苦竹村でたくさん栽培されていました。そのことをよく知る伊沢家が、川芎の利用法として精気丹の販売を始めたのではないのでしょうか。それは、藩の専売制から離れ、力を失っていく苦竹村薬種栽培の振興を図ろうと企画したものであったのかもしれない。

しかし、明治時代という経済・流通の大変動に逆らうことはできませんでした。薬種もまた生き残れなかった逸品といえます。

7/17(金) ~ 9/6(日)

【前期】7/17(金)~8/9(日)
【後期】8/11(火)~9/6(日)

※会期中、一部展示替えを行います。

前売券 好評発売中!

初期浮世絵の名品から、スター絵師たちの華やかな作品まで、江戸文化の粋をとくとご覧あれ!

特別展 **ご覧あれ 浮世絵の華**
—歌麿・北斎・広重 平木コレクションの名品—

【観覧料】一般:1,200円(前売1,000円) 大学・高校生:900円 小・中学生:500円
展覧会公式ウェブサイト <http://ukiyo-e-mmt.tv/>

(前売券販売所) 藤崎、仙台三越、エスパル仙台店、チケットぴあ(Pコード:766-805)、ローソンチケット(Lコード:22977)、セブンチケット(セブンイレブン店頭)、イープラス(<http://eplus.jp/>)、金港堂書店(本店・泉パークタウン店)、紀伊屋書店仙台店、仙台市博物館ミュージアムショップ、ミヤギテレビ事業部

■主催:「浮世絵の華」仙台展実行委員会(仙台市博物館・ミヤギテレビ)、公益財団法人 平木浮世絵財団
(資料写真) (左) 喜多川歌麿「芸者亀吉」(重要美術品) (右) 東洲斎写楽「三代目市川高麗蔵の志賀大七」(重要美術品)
(いずれも通期展示/公益財団法人 平木浮世絵財団)

開館時間:午前9時~午後4時45分(最終入館午後4時15分) ●7月・8月の休館日:7月20日をのぞく毎週曜日、7月21日(火)

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/>
SENDAI CITY MUSEUM